

XIE CHUNLIN'S PAINTING OF LANDSCAPE AT SEASCAPE

謝春林海景山水畫

在水一方——

上海人民美術出版社
Shang Hai People's Fine Arts Publishing House

在水一方

謝春林海景山水畫

Xie Chunlin's Painting of landscape at Seascape



孩童時代

上海人民美術出版社

Shang Hai People's Fine Arts Publishing House

圖書在版編目 (C I P) 數據

在水一方 — 謝春林海景山水畫 / 謝春林著. — 上海:
上海人民美術出版社, 2006.6
ISBN 7-5322-4746-5

I. 在. . . II. 謝. . . III. 山水畫—作品集—中國—
現代 IV. J222.7

中國版本圖書館 CIP 數據核字 (2006) 第 018751 號

在水一方——謝春林海景山水畫

策 劃 上海東方金馬房地產有限公司
繪 畫 謝春林
責任編輯 周衛明
裝幀設計 清 遠
出版發行 上海人民美術出版社
地 址 上海長樂路 672 弄 33 號
製 版 上海立藝彩印製版有限公司
印 刷 上海麗佳製版印刷有限公司
開 本 889 × 1194 1/12 印 張 9
版 次 2006 年 6 月第 1 版 第 1 次印刷
印 數 0001 — 1250
書 號 ISBN 7-5322-4746-5/J.4233
定 價 138.00 圓



謝春林，出生於上海市，畢業於上海教育學院、日本國立京都大學。現為日本國際書畫文化交流協會會長、日中國際文化基金會主席。

出版有《謝春林畫選》、《謝春林中日風景百圖選》、《謝春林海景山水畫》等。作品經常參加各種國際美術展，多次得獎。舉辦個人畫展24次。巨作《富士雄姿》被著名的日本橿原神宮永久收藏，日本NHK、中國中央電視臺也都作了報道，榮獲日本皇室頒賜的“御杯”。上海電視臺攝製了專題片《山水情——旅日畫家謝春林》。其傳略和作品被收入《中國當代藝術家名人錄》、《世界華人藝術家成就博覽大典》、日本《美術年鑑》等各種著作中。八次擔任日本文化友好訪華團團長，並助學祖國71名貧困兒童。

個人主頁：www.geocities.jp/xcr_9_9/

謝春林，上海に生まれ、上海教育學院、日本国立京都大学卒。現在、日本国際書画文化交流協会会長、日中国際文化基金会主席などを勤めている。「謝春林画選」、「中日風景百図選」、「謝春林海景山水画集」などの画集を出版した。日本三大神宮の一つ橿原神宮に六曲二双屏風「富士雄姿」を奉納、日本の皇室より純銀「御杯」を拝領、NHK、CCTV、上海テレビ局特別番組で紹介された。「美術年鑑」、「名人大辞典」などに多数掲載され、国際連合展主催8回、個展24回。ほかに、8回日本文化友好訪中団団長を勤め、また、文化基金会中国少数民族地区の貧しい子供計71名の助学金を負担している。

ホームページ www.geocities.jp/xcr_9_9/

那是在上世紀最後一年的初秋之夜，我們上海市美術家代表團在日本京都參加了一個隆重的慶賀儀式和宴會。席散後，受謝春林先生之邀，我和上海大學美術學院副院長張培健夜遊了步行街。我們踏着月色，漫步在一條有着流水的小街上，道路兩旁的樹影影影搖搖地遮擋了後面店鋪的燈光，祇是在微風的搖曳中，閃爍出一片片移動着的黃色光輝，這景色很像我國的江南城鎮。步行街盡頭是一條寬闊的大街，我們隨即又拐進一條更小、有像上海弄堂一樣的酒食街，兩邊的酒肆飯門洞都是十分的窄小，但却是高檔的消費場所。最後我們三人在一家吃生魚片的小店裏坐下來，邊吃夜宵，邊聽春林說他在日本的奮鬥史，說他在藝術上的苦業事。那一夜，我們談了很晚，直到過了零點才起身回旅館。

大海是一個夢

謝春林的出生地上海，是一座地處東海岸綫中端的大都市。它有着“海納百川”的寬闊胸懷，孕育了引領中國近現代文化的“海派”藝術。謝春林在35歲時東渡到了日本，在一個四面都是海的島國又生活了20年。可以說，謝春林是傍海生長，傍海立業。對於大海，他并不陌生。不過，春林却說“大海是一個夢，一個夢幻”。似乎有點令人費解。與春林接觸多了，才瞭解春林把大海看作為夢，是感慨於大海的深沉和神秘，是從大海中依稀看到了他的藝術的希望。

事情要上溯到1985年初，謝春林在那年曾出了長江口去畫大海的景色，面對着大海瞬息萬變的性格、氣象萬千的形勢，他的心裏頓時激起一股強烈的創作欲望。這最初的創作衝動促成了他的第一幅水墨海景畫誕生，畫題就叫《心濤》。這個《心濤》得到了應野平先生的高度評價和肯定。應先生對他說：“春林啊，這畫水的水家中惟獨沒有畫大海的畫家，你還年輕，可以下點功夫，嘗試一番。”謝春林知道日本繪畫大師東山魁夷已在10年前為日本招提寺御影堂完成了一幅海景障壁畫巨製《靜謐》。不久，春林去日本尋找藝術發展之路。他始終記着應老師的教誨，盯住大海作畫，從千里冰封的鄂霍次可海的《寒海奇觀》，畫到南太平洋平日的陽光海灘《浪漫》，從東海的大潮洶湧，畫到風平浪靜的《重返蘇連托》，把他自己的感情融進海的喜怒哀樂之中，沒測在海的晝夜晨暮之裏。為了畫海，他花了7年的時間周遊世界，足跡遍及美洲、澳洲、歐洲、東南亞等幾十個國家和地區。

當春林跟我說，他決定今年7月在上海舉辦他的個展“海景山水畫展”，以紀念他在東瀛的藝術活動20周年，並將作國際巡迴展出時。我由衷地感到他感到高興，因為春林終於圓了他的大海夢。

基於傳統，走出傳統

謝春林的山水畫基礎來自於傳統，宋元名畫是他學習的臨本，特別

是范寬的《雪景寒林圖》竟被他臨摹了多遍。後來，他又師從上海著名山水畫家應野平，專注於山水畫學習，被應野平收為關門弟子。在深入學習了傳統之後，春林感到，傳統的繪畫技巧祇是過去時代的經驗積聚，畫家融入作品中的感情也是屬於那一時代的。當代的藝術家祇有將傳統的技藝進行改革和更新，使之適合表現當代人的生活和感情，將為具有新時代氣息的藝術表現，才有可能產生出為今人所喜、為今人所愛的作品。所以，春林一再告誡自己要“基於傳統，走出傳統”。

春林到日本後，在山水畫創作上有新的思考。他從傳統山水畫以“山”為主體的表現方式，轉化為以畫“水”為主體。春林對山水畫表現主體的轉移，正是基於中國繪畫歷史上對“海”的忽視而作出的一個不凡的選擇。這一選擇，既包含了他對大海的隔不斷的情結，也包含了他對個人藝術面貌形成的思考和探求。海，在中國傳統繪畫中是少有表現的。春林選擇畫海，可以說是向傳統挑戰，因為在古人不大畫海，也沒有留下什麼畫海的墨寶。若要畫海，就必須創造出自己所的一套筆墨技巧。

用色為主來替代傳統繪畫的以墨為主，是春林的海景山水畫又一特色。西方繪畫，特別是以前寫真表現色彩為追求目的的印象派繪畫，將大自然中海的色彩描繪得生動之極。而中國繪畫，從古代的“隨類賦彩”到宋元以來的以墨代色，表明中國繪畫的色彩表現逐漸脫離現實而走向精神的流露。在春林的海景畫中，他運用了西洋繪畫的色彩，強調畫面的色澤和色調的表現。但是并未敢使用中國的筆、墨、紙、硯在作畫，而且在作畫理念上也是中國化的，不着意於逼真地表現海的顏色，而是注重於表達自己對海的感受，包括海的氣勢、大海的色彩、海的神秘感。這樣的創作方式，使得他可以既從自然景致上脫身出來，又可以從自然的色彩上脫身出來，在創作時獲得了高度自由。

畫大海，離不開白色，這白色便是水的浪花。我記得有一次乘船去大連，看到過深藍得像寶石般的海、碧綠得像翡翠似的海。船體的銅板將大海劃開，將藍寶石、綠翡翠碾得粉碎，翻開片片白色的浪花，那海的美麗是非親眼看到而不能體會的。春林引以為豪的是，他的海景畫中從不使用白顏料。他認為，如果用了白顏料，畫面會顯得“膚淺”和“呆板”。所以他總是採用中國傳統水墨畫中的“留白”的手法來表現海的浪花。但是要畫出雪浪飛騰的星星點點的水珠，再使用傳統的“留白”方法，已是難以應付了。如果用潑水來做，留出來的白點也不够自然。20年來，春林一直在苦苦鑽研這一技法，直至創造出他自己的“留白”方法。他不想透露其中的奧秘，却都明明白白地顯現在他的畫中。

此外，春林畫海，十分強調音樂感的表現，這也是在中國繪畫中所少見的。他說兩年前曾在維也納的金色大廳裏欣賞大提琴與交響樂協奏曲時，竟在悠揚婉轉的琴聲中悟到了色彩的感覺。自從那以後，他作畫時，總是一邊聽着小提琴或鋼琴的樂曲，一邊將對音樂的理解和感悟移情到宣紙上。春林的畫，不僅是富有詩意的，也是富有樂感的。

燃燒生命的創作

謝春林如今已是五十開外的人了，按中國的說法是進入“知天命”之年了，但是春林對藝術的迷戀甚至愈發地癡心不改，有的時候每天作畫長達18個小時，比一般的人要多工作一倍的時間，而少休息一半的時間，這還不包括他在夢中的作畫時間。因為他入睡時，夢中還老是在畫畫，似睡非睡。長期緊張的腦力和體力消耗，使得他非常渴望能夠有一些休息時間，哪怕是祇有5分鐘也可以。有時候病倒了，他也會硬撐起來作畫。好像總有個“人”在無時無刻、無處不在地催促着他。這“人”實際上就是他心中的“藝術之神”。春林總是這樣想，當藝術靈感來臨時，你不及時抓住它，它稍縱即逝。有的人一生中也許祇有一次，而更多人也許連一次的機會都沒有。有位朋友曾發信息給他，要他一定要珍惜身體，不要太累了。人生就像是一支蠟燭在燃燒，燒得太快，或中間的滅滅都是令人可惜的。春林回答說：“我現在控制不住，我在亮亮地燃燒，人生中有時候需要光輝。”

我聞此言，感到強烈的震動。

春林使我想起一位老人。齊白石定居北京後，他為自己定下了一個規矩：“要每日作畫，不教一日閒過。”如果確有原因一天未畫，

那麼第二天就一定補上。在四十餘年中，他祇有三次歇筆未畫：一次是他大病，兩次是他母親和父親相繼去世。我也曾勸說過春林不要過度操勞，宜適可而止。他總是笑着稱是。我也知道，在這微笑的背後，還是義無反顧的一路既往。當一位藝術家決定將他的一切獻給藝術的時候，燃燒生命并不是件悲哀的事情。春林說：“如果把一個廣義上的好的藝術家定在能夠付出、不懈追求的人的話，那麼我想我是一個好的藝術家。”

我聞此言，又一次感到強烈的震動。

謝春林在日本定居已有20年了，在日本的美術界，特別是在旅日華人藝術家中已是一位很有聲望的代表人物。多年來，謝春林為中日文化的交流做了許多工作。他在上海市美術家協會與日本昭和美術會的長期藝術交流中作出了可貴的努力。2000年，謝春林受上海市政府的邀請，組建了由他任團長，60名各界精英組成的“全日本傑出留日人員訪問團”訪問上海。在香港回歸、澳門回歸以及建國50周年大典觀禮等重要活動舉行時，他都接到全國政協的邀請。他資助了祖國71名貧困孩童，讓他們能夠享受到學習的快樂。謝春林的這次個人畫展以“在水一方”為主題，寄寓着他願為中日兩國民間的藝術交往繼續盡其棉薄之力的深意和情懷。

我預祝《在水一方——謝春林海景山水畫展》在上海的首展成功。

2006年3月20日於上海
上海市美術家協會副主席兼秘書長 朱國榮

序

朱國榮

前世紀最後的年的ある初秋の夜。私たち上海市美術家代表団は京都で開催された祝賀会に参加した。散開後、私は謝春林氏の誘いを受けて上海大学美術学院副院長の張培健氏と夜の街を散策した。私たち3人は月明かりの中、一筋の小川が流れる通りを歩いた。両側の木々は後ろの店の明かりをささげ、そよ風の中であばやりと揺らめき移動しながら黄金色にきらめいている。この風景は江南の街のようだ。通りの突き当たりは広い街であった。私たちは上海の路地のような細い小道を曲がった。両側の酒場や飲食店の入り口はとても狭いが、それが却って高級なイメージをかもし出している。私たち3人は軒の軒下に入った。夜食を探りながら春林の日本での奮闘史―芸術上の楽しみと悩みに耳を傾けた。その夜、私たちは遅くまで語り合い、夜中の0時過ぎ旅館に戻ったのであった。

大海はひとつの夢

謝春林氏は上海生まれである。上海は東シナ海に面した海外線の中点に位

き日本に渡った謝春林氏は海に囲まれた島国日本での生活がすでに20年になる。海の傍で生まれ育ち海の傍で仕事をきたといえるだろう。大海をよく知っているはずの彼は、しかし「大海はひとつの夢で、幻だ」と言う。少々わかりにくい言葉だが、春林と付き合っているうちに大海を夢と考える彼が理解できるようになった。海は奥深く神秘に満ちている。芸術に対する彼の希望は大海からぼんやりと窺い知る事ができる。

時は1985年初に遡る。謝春林氏はこの年、揚子江の河口で東シナ海の風景を描いていた。目まぐるしく変化する大海の風景は壮観を極め、彼の心には創作への意欲が瞬時に沸き起った。創作に対するこの最初の衝動により、彼は水墨画で海の風景を描いたのだった。この風景画は『心海』と呼ばれ北野平画伯の高い評価を得るところとなった。東画伯は彼にこう言った。「春林よ、海の絵を描いた山水画家でないか。お前はまだ若い、努力してやってみるかい。」春林は日本

の画の大家である東山魁夷画がすでに10年前に、唐招提寺の御影堂で障壁画の大作「海声」を完成したことを知っていた。ほどくなく春林は芸術発展の道を求めて日本へ設立した。彼は防衛画の教を授けられ「海を見つめたい。水に閉ざされたオホーツク海の風景「寒海奇観」、南太平洋の小島の光り輝く浜辺「霞渡」、東シナ海の「大瀾海」、波静かな「隔れソレント」など、彼は自分の感情を昼間や夜、明け方、夕暮れの海の喜怒哀楽と重ねあわせた。海を描くたびに彼は7年の歳月をかけて世界をめぐる。その足跡は、欧米諸国、東南アジア何十ヶ国に及ぶ。

日本での芸術活動20周年を記念して、春林は今年7月に開催「海景山水画展」を上掲で開いた。その後外国で展覧会を連続開く予定である。彼のために心から喜びを叫ぶ。なぜなら、彼はついに大海の夢を実現したから。

伝統を基礎として、伝統から脱却する

謝春林氏の山水画の基礎は伝統にある。宗元の名師が師の手本であった。特に範寛の「雪景寒林図」は何度も模写した。後に、上海の高名な山水画家である応野平画伯に師事し山水画の勉強に力を注いだ。深く伝統に入った後、彼は思いついた。「伝統的絵画の技法は過去の経験の累積に過ぎない。画家が作品の中に投影した感情もその時代の中にあるものである。現代の芸術家は伝統的な芸術に改革と更新を与え、現代人の生活と感情にあった新しい芸術表現を目指さなくてはならない。そうしてこそ人に喜んでもらい、人から愛される作品を生み出すことが出来る。」そこで、春林は「伝統を基礎として、伝統から脱却する」ことを常に自らを戒めている。

日本に來て春林は新たな山水画について考え、伝統的な表現主体を「山」から「水」へと移した。中国絵画史はこれまで「海」を見落とすとしていた。彼のこの素朴らしい選択は大海に対する思いや芸術面に対する思考と探求を含んでいる。中国伝統絵画を描くには海は表現されていなかった。春林は海を描く事をを選択した。伝統に挑戦したと言えるだろう。古人は海の絵をあまり描き残さなかった。海を描いた水墨画は残っていない。もし海を描こうとするなら、新たな技巧を創造しなければならぬ。

伝統絵画は墨を主体としているが、春林の山水画の特徴は色を主体としている点である。西洋の絵画は、特に光色のプリズムの追求を自らの主眼とし印象派の絵画である。大自然の中の情景は生き生きと表現している。これに対して、中国の絵画は古代の「随類賦彩」訳者注から宋元以来、墨で表現し、徐々に現実から離脱し精神的な方向へと向かっていった。春林の海景山水画は、西洋の色彩を取り入れ、調子による表現を重視している。しかし、中国の筆墨、紙、硯を使用しており、理念上、本物さなく海の他の再現に固執しているわけではない。それどころか、暖い色調、神秘感とを含む大海に受ける感情の表現を重視し、自然の風景からばかりでなく色調からも抜け出し自由に描いたのである。訳者注「随類賦彩」とは絵画法の一冊で対象にしたがひ色彩を施すこと。

大海を描くのに白い色は欠かせない。この白は雪の花である。昔、大連で船に乗ったことがあるが、その時の海はエメラルドのようでもあり翡翠のようでもあった。そのエメラルドや翡翠を奪うように、白い雪の花を散らして船は大海を進んでゆく。その美しさといったら実際に見たものでなければ分らない。春林の絵が優れているのは海景山水画に白い顔料を使っていることだ。白の顔料を使えば調子は型に嵌った底の浅いものになってしまふ、と彼は思っている。それゆえ、中国伝統的水墨画中の「留白」の技法で海の波の表を表現しているのだ。これは適用にまかすことのできない難しい方法である。もし明瞭を使えばなかなか自然な白色にはならない。20年来、春林はこの技法について研鑽を重ね、ついに自分の「留白」方法を編み出した。彼はその美義を自ら漏らそうとは

思わないがその絵の中に明白に現れている。

また、春林の海からは音楽を感じている。これは中国の絵画にはまったくないことだ。彼は2年前ウーヴァンでチェロと交響楽の協奏曲を演奏したときに、チェロの音から色彩感覚を得たという。そのとき以来、彼はバイオリンとピアノを聴きながら、音楽に対する理解や感覚を宣紙に込め絵を描いている。春林の絵からは詩的味わいだけでなく音楽も感じられるのだ。

創作に注ぐ生命の燃焼

謝春林はすでに50歳を超えた。中国人の考え方では、「天命を知る」年である。しかし、春林は芸術に對し一途に思う心を変えようとしぬ。時には日に18時間創作に当てている。仕事時の時間通常の人を2倍であり休憩時間は半分である。これは彼が夢の中で創作している時間を含んでいる。彼は寝ていてもとき常にも絵を描いている。長期にわたる緊張で知力と体力は消耗した。たとえ5分間でもいかに休息時間が欲しいと思うことがある。例へて例え事もあるがそのときも絵筆を放さなかった。いつでもどこでも「何か」に追われているかのよう。に。「何か」とは「芸術の神」なのだ。春林はいつも思う。芸術に對するインスピレーションが舞い降りたとき、うまくそれを捕らえなければ瞬時に消失してしまふ。そのような機会は一生に一度しか来ないかもしれない。一生来ないかもしれないかもしれない。ある友人が、あまふれぬように、体を大切にするようにと彼に言った。人生とは蠟燭が燃えるようなもので、速く燃えつた途で消えてしまふは勿体ない。春林は答えて言った。「自分ではどうしようも出来ないのですよ。燃え続けるのみで、人生で時には光り輝くことも必要なのです。」

私は心を震わしたとき、感動で震えた。

春林は私にある老人を思い起こさせた。齊白石は北京に居を構えたとき、自分に「毎日画を描き、一日も無駄に過ぎない」という規則を課した。もし、一日絵を描かぬければ次の日には必ず補償する。40年余の間、彼が絵を描かなくなった日はわずか三回に過ぎなかった。一回は大病を患ったため、あとの二回は両親が亡くなったときである。私も春林にあまり根をつて倒れないようにと忠告した。彼は笑って、そうなら答えた。だも私知が知っている。彼の父親の裏に後には引けない責任があることを。一人の芸術家が自分の一生を芸術にささげると決めたとき、生命が燃え尽きすることは決して悲しいことではない。春林は言う。「もし、広い意味で、良い芸術家とはたゆまず努力する人のことを言うなら、私は良い芸術家といえるだろう。」

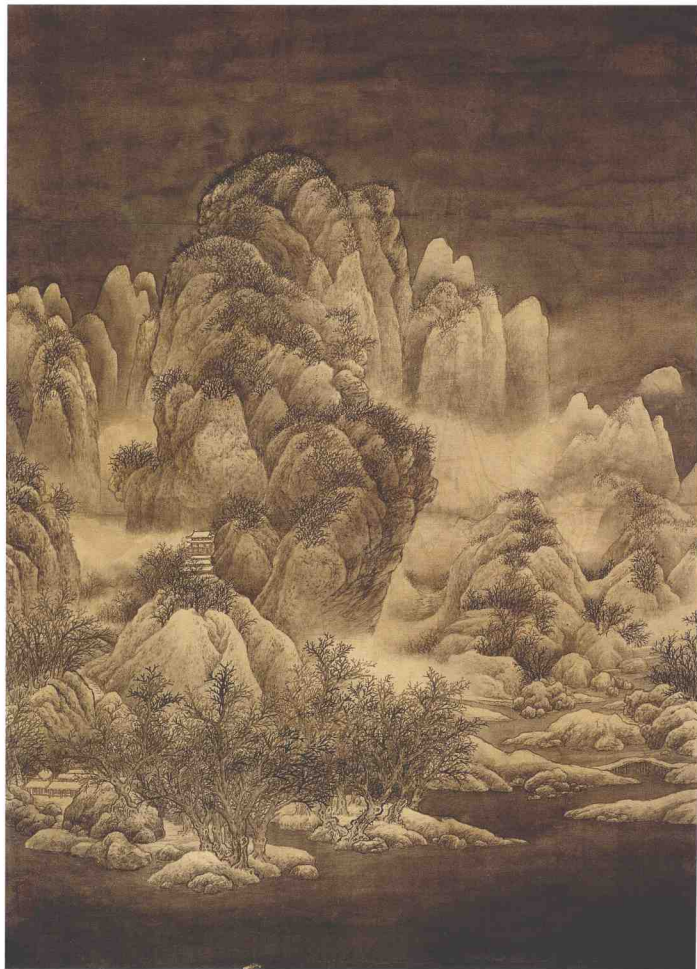
この言葉に震わしたとき、私はまたも感動で震えた。

謝春林氏は日本に居を構えてすでに20年になる。日本の美術界、特に在日華僑の芸術界の中は信望の高い代表的人物となっている。この間に謝春林氏は中日の文化交流の仕事をしてきた。上海美術家協会と日本昭和美術界との長年にわたる芸術交流に力を尽くしてきた。2000年、謝春林氏は上海市政府の招きを受けて彼を団長とし各界の情勢60名からなる「全日本傑出留日人員訪問團」を組織し上海を訪問した。香港返還、マカオ返還、建国50周年祝典などの重要なイベントとさまざまな全国政協協議会の招きを受けた。また、故国で貧困児童71名を彼の手で助けられるように援助した。謝春林氏の今回の展覧のテーマは「在水一方」、彼は中日両国の民間芸術の交流が駛る車を願っている。

「在水一方——謝春林海山水画巡回展」の上海での成功を祈る。

2006年3月20日、上海にて
上海市美術家協会副主席兼事務総長 朱国荣
(訳: 盛江)

● 序 朱國榮	1	26. 破冰出航 (日本知床)	51
Preface Zhu Guorong		Sailing of breaking ice (shiretoko, Japan)	
1. 山水畫的原點 臨宋范寬《雪景寒林圖》	1	27. 富士五湖	53
Simulating "Snow and Shivery forest" painted by Fan Kuan, Song dynasty		Five lakes in Fuji mountain, Japan	
2. 心跡	3	28. 浪浪灑灑向驚鴻處	55
Billow from heart		Splashing bulk of ink to amazing billow	
3. 上善如水	5	29. 重返蘇連托 (意大利)	57
For goodness as waters		Return to sorrento, Italy	
4. 海濱言詩 (澳洲黃金海岸)	7	30. 海風吹過 (法國尼斯)	59
Musical poem from seashore (Australia golden seashore)		Wind is blowing up from Sea (Nice, France)	
5. 花蓮激流 (中國臺灣)	9	31. 熱帶雨林深處 (泰國)	61
Turbulent Stream in Hua Lian (Taiwan, China)		Tropical Rain Forest (Thailand)	
6. 翱翔於浪尖	11	32. 光與海	63
Hovering top of wave		Light and sea	
7. 流水不腐 (中國張家界)	13	33. 大潮涌來 (中國東海)	65
Undeified stream (Zhang Jia Jie, Hunan, China)		Big tide is coming in (East China Sea, China)	
8. 靜聲	15	34. 飛越無人島 (印度尼西亞)	67
Sound of billow		Flight over Nobody Island (Indonesia)	
9. 海上仙境	17	35. 寒水朝陽 (阿拉斯加)	69
Fairyland at sea		Chilly water and raising sun (Alaska)	
10. 海上桂林 (越南哈隆灣)	19	36. 陽光的日子 (南太平洋)	71
Guilin at sea (Vietnam)		Sunny day (South Pacific Ocean)	
11. 藍天下 (地中海)	21	37. 天宇浩瀚	73
Blue sky (Mediterranean sea)		Immense space	
12. 小夜曲	23	38. 寒海奇觀 (鄂霍次可海)	75
Serenade		Wonderful view in Chilly sea (Sea of Okhotsk)	
13. 用心聽聽聽靜聲	25	39. 路 (奧地利)	77
Listen billow by heart		Road (Austria)	
14. 小山溝裏的大瀑布	27	40. 我愛這藍色的海洋	79
Great waterfall in hill valley		I love the blue ocean	
15. 海上生明月	29	41. 浪漫 (太平洋上小島)	81
Rising bright Moon from Sea		Romantics (Small Island in Pacific Ocean)	
16. 水天相連	31	42. 其樂無窮 (印度洋)	83
Sea and sky together		Infinity of happiness (Indian Ocean)	
17. 北海晨曲 (英國)	33	43. 瞬間	85
Morning song from North Sea (Britain)		Instant	
18. 搏擊	35	44. 美麗的羅伊西湖畔 (加拿大)	87
Combating		Beautiful roiyisu lakeside (Canada)	
19. 逮小魚	37	45. 千姿百態九寨瀑	89
Catch small fish		Multiple attitudes of Jiu Zhai waterfall	
20. 漂流 (新西蘭蘭祁塔維川)	39	46. 戲水圖	91
Rafting (New Zealand)		Playing water	
21. 那天我們去看海 (日本海鹽歧島)	41	47. 九寨溝珍珠瀑	93
We observe sea certain day (okinoshima, Japan)		Pearl waterfall in Jiu Zhai Gou, Sichuan	
22. 鴨川一隅 (日本京都)	43	48. 海底世界 (日本沖繩)	95
The part of kamogawa (Kyoto, Japan)		Undersea World (Okinawa, Japan)	
23. 等待…… (德國)	45	49. 尼加拉大瀑布一角	97
Waiting…… (Germany)		A part of Niagara falls	
24. 寶石般的五彩海 (夏威夷)	47	50. 一路順風	99
Diamond-like multicolored ocean (Hawaii)		Have a splendid voyage	
25. 流動的樂章	49	● 後記 謝春林	100
Moving musical movement		Postscript Xie Chunlin	



畫
家
心
語

大海的一動一靜，瞬間的黑白轉換，千變萬化的氣勢，無不在我心中激起一陣陣創作欲望。

2. 心湧

Billow from heart

心湧

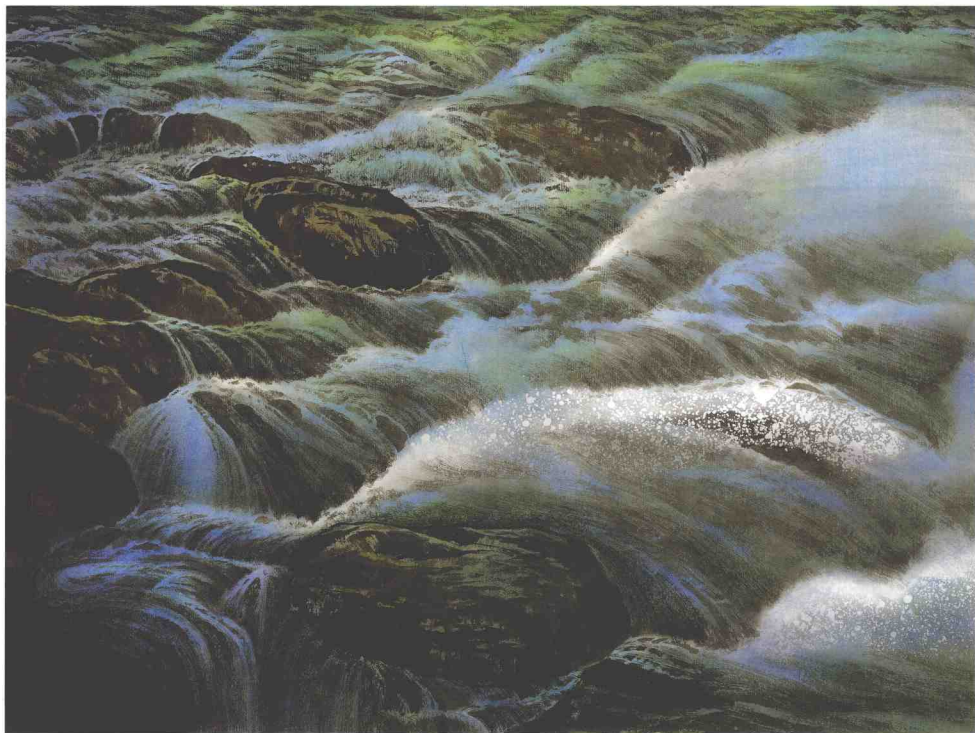


我的生命、我的藝術，離不開中華這個根，這個根是根本所在，離開了這個根，其他一切都要打折扣。

3. 上善如水

For goodness as waters

上善如水

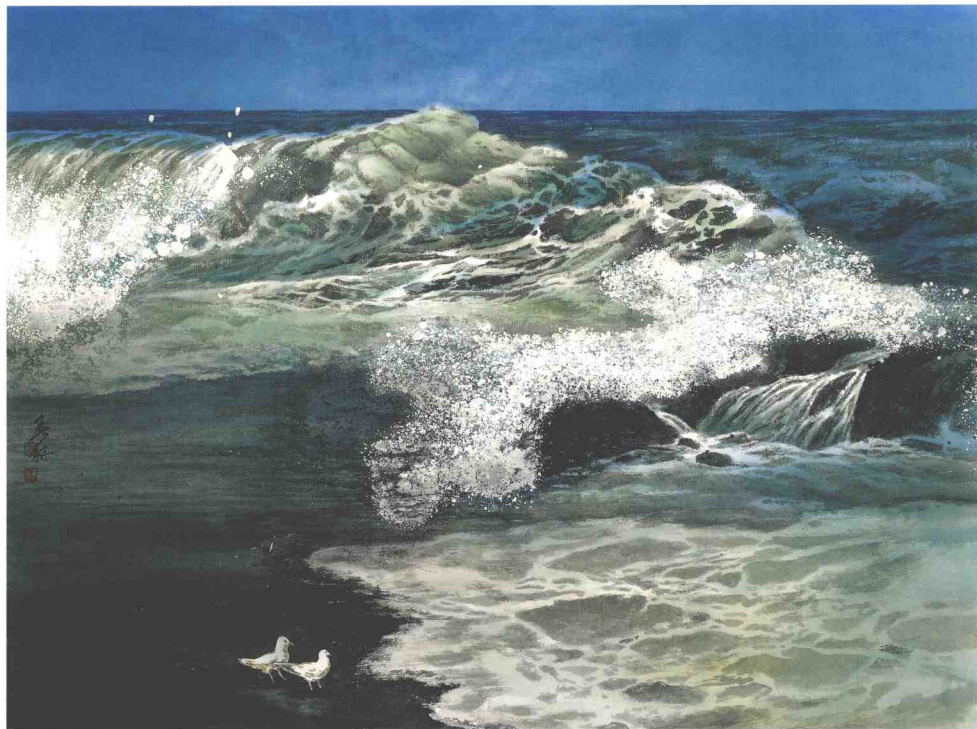


大海是一個夢、一個夢幻，開闊、時而靜寂時而激烈的世界，大海總時蘊藏着無窮的神秘。

4. 海濱音詩（澳洲黃金海岸）

Musical poem from seashore (Australia golden seashore)

海邊的音詩（オーストラリア）



没有了生活就没有了感受，就没有創作的源泉，也就更無從談及作品了。

5. 花蓮激流（中國臺灣）

Turbulent Stream in Hua Lian(Taiwan, China)

花蓮激流（中国台湾）

